

群馬県立県民健康科学大学大学院
看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）
2020年度 社会人特別選抜試験問題

小論文試験問題

群馬県立県民健康科学大学大学院

以下の群馬県の在住外国人に関する新聞記事（2018年12月3日）を読んで問いに答えなさい。

日本語を流ちょうに操り、飲食店やコンビニなどで働く外国人の姿を見掛ける機会が増えた。県内に住む外国人は2017年末時点で過去最多の5万3千人となり、県人口に占める割合は2.7%に。外国人が地域社会で身近な存在になる一方、共生に向けた課題も表面化している。今国会で外国人労働者の受け入れを拡大する入管難民法などの改正案が成立する可能性が高く、さらなる“国際化”への対応が急務だ。（中略）

多文化共生に詳しい群馬大の結城恵教授は、外国人が増えた過程を90年～2008年前半までの「黎明期」、リーマン・ショックや東日本大震災があった08年後半～13年後半の「展開期」、14年以降の「転換期」と分類する。

急速に外国人が増えた黎明期は自治体職員がごみ出しカレンダーを多言語で作製するなど受け入れ環境の整備が進んだ。経済不況や天災が続いた展開期は一部の外国人が帰国を選択し、転換期の現在は「望んだ人もそうではない人もいるが、定住の意思がある人が残っている」（結城教授）と指摘する。

多くの外国人が地域社会に溶け込んでいる一方、日本語に不慣れで安定した仕事に就けず貧困に陥る外国人は少なくなく、地域から孤立して犯罪に手を染めるケースもある。日本語学習支援や地域住民と相互理解を深める交流の重要性が指摘されている。NPO法人多文化共生ぐんまの松島郁夫理事長は「交流を深め、地域をともにつくっていくパートナーになってもらうことが大事」と強調する。（後略）

出典：毒島正幸：「進む定着 県人口2.7% 法改正で支援拡充 急務」, 上毛新聞, 上毛新聞社, 2018年12月3日（日刊）

問1. 記事をふまえ、「黎明期」と「転換期」において、在住外国人が抱えるだろうと考える生活上の問題について、具体例とともにその違いを250字以内で述べなさい。

問2. 記事をふまえ、増えていく在住外国人における健康問題に対し、看護職者としての課題とその対処についての自分の考えを500字以内で述べなさい。

注 意 事 項 (小論文試験)

- 1 小論文の試験時間は、9時20分～10時50分です。
- 2 試験問題用紙の表紙が願書提出時の選抜区分（「社会人特別選抜」）であることを確認してください。
- 3 問題用紙は1枚、解答用紙は3枚です。下書きは用紙の余白をお使いください。
- 4 すべての解答用紙の所定の欄に、必ず受験番号・氏名を記入してください。
- 5 解答は、すべて解答用紙に記入してください。ただし、※印欄には記入しないでください。
- 6 問題用紙・解答用紙に不鮮明な部分や汚れなどがある場合は、声を出さずに手を挙げて、監督員の指示に従ってください。
- 7 試験中に質問や用便などの用件がある場合も、声を出さずに手を挙げて、監督員の指示に従ってください。
- 8 試験開始後、30分間は途中退場を認めません。30分経過後、途中退場する場合は、監督員の指示に従い、解答用紙を監督員に提出したのち退場してください。
- 9 問題用紙・解答用紙・下書き用紙を持ち帰ることはできません。
- 10 不正行為や、他の受験生に迷惑となる行為をした場合は、退場させることがあります。